

# アマダイ通信NO. 135

(Tile fish network letter)

2020年 雪柳白く

## 知人・友人各位

中国の勃興、米中覇権争いが話題の1年が暮れたと思ったら、中国発のコロナウイルス禍。40年ほど前にも似たフレーズ。「ジャパンアズNO.1」。嘘だ！と思いながら耳に心地よく、バブル消費に狂う。バブルは破裂、30年近く日本経済は浮上できず、格差が広がる。大して金もないのに今でも孫娘と海外ツアーに出掛け、スキーを楽しんだり、仲間とゴルフに興じるアリギリス爺さんもいる。去年と同じように見えても、体力、気力に目に見えぬ変化はあって、いつか量が質に転化する日がくる。今日が昨日の、明日が今日の延長に思える限り、「今」を楽しみたいのが人の常か？コロナ後の中国、そして世界はどうか？

## ◎パンデミック（世界的大流行）

コロナウイルスによる感染が蔓延、パンデミックが宣言され、アメリカはじめあちこちで「非常事態宣言」。日本でもあたふたと「非常事態法」。毎年沢山の人間がインフルエンザにかかり、多くの方がなくなる。人的被害はコロナウイルス以上とも。なぜコロナウイルスはこんなに騒がれ、恐れられるのか？インフルエンザウイルスはある程度解明が進み、ワクチンが出来、特効薬もある。コロナウイルスは正体がわからず、検査も十分に出来ず、ワクチンも特効薬もない。「実力」以上に恐れられているのか？エイズやエボラ出血熱などもそうだった。致死率が高く、正体がわからず、特効薬もない。極度に恐れられた。病原菌が特定され、感染経路がわかり、治療薬が出来ると、怖いが無闇に恐れる病ではなくなった。コロナウイルスもいずれ無闇に恐れる必要はなくなるのだろうか。

人類の何十万年の歴史で、ほんの最近、千年、数百年前の中世や近世でさえ、ペスト（黒死病）や天然痘などの疫病が流行ると、人口も多くなり、人口密度も薄く、交通未発達時代に、数百万、数千万単位で人命が失われた。14世紀のヨーロッパで総人口の3分の1ほどの2500万人から3000万人もペストで死んだ。16世紀にはコロンブスの新大陸征服で南北アメリカ大陸で天然痘が猛威をふるい、免疫を持たない先住民の人口は10分の1にまで減った。19世紀から20世紀にかけコレラが地域を変え7回大流行、スペイン風邪（インフルエンザ）でも1918年から1919年にかけ世界の死者は5千万人以上。記憶にある戦後の日本でさえ、腸チフスや発疹チフス、赤痢、日本脳炎などの感染症で多くの幼子が死亡、結核で亡くなった若者や働盛りの多い。ポリオによる小児マヒの記憶も新しい。

この半世紀ほどの経済成長と共に日本では上水道や下水道、住宅の整備が進み、食生活と公衆衛生も向上、医学と医療の進歩、医療保険の整備もあり、健康で豊かな生活を享受、平均寿命も伸び、病気に強くなった。正体がよくわからない、治療薬のない病気に対しては、まずは手洗いやうがい、消毒、マスクを励行、うつしたり、うつされたりを避ける必要がある。人と人との交流・接触、移動の制限も邪無を得ないが、交流し・学び・働くことは人間の基本的な欲求。最先端の技術も使いながら、どう折り合いをつけていくか？他の動物と違う、人間の知恵、「人智」が求められている。

## ◎共助の制度、共助の精神・・・リハビリ病院へ

歩行器を使う要介護 3 の妻が 11 月半ばに転んで骨折、救急車で築地の聖ルカ病院に。中央区に救急患者を受け入れる整形外科は他にない。全部個室で、差額ベッド代が高いことで有名な病院。急なことで考える余裕なし。ないなら仕方ない。妻も短大卒業後栄養士として国立保養所や小学校で働き、多少の老後の蓄えはある。「生涯現役」と嘯く🍀も幸いまだ現役。聖ルカの若い女医はベッド代一日 3 万円からですが、いいですか？と、聴診器を当てつぶやく。可愛い女医さんが、金槌とノミ、鋸と包丁使い肉と骨を切り刻み、鉗と針、糸で神経と血管、筋をつなぐ！と、感心しながらうなづく他ない🍀。年とると骨と骨はくっつかない、人工大腿骨で置き換える必要があると事もなげ。チタン製の高価な人工大腿骨をいれ、3、4 日で立ち上がりリハビリが始まる。昔ならここで寝たきりとなり、死の床になった。今はここからもう一度人生が、歩く訓練が始まる。

急性期の入院は 60 日まで、差額ベッド代は 3 万 3 千円と高く、1 日 45 分ほどしかリハビリしない。リハビリ病院なら 1 日 3 時間リハビリ、ベッド代も安い。聖ルカのソーシャルワーカーに探して貰うが、高齢者の骨折が多く、中々みつからない。佃にある石川島記念病院ほど近くないが、江東リハビリテーション病院なら、大部屋は一杯だが、個室なら直ぐ入院できるという。勝どきから大江戸線、森下で同じ都営の新宿線に乗り換え、西大島の駅から 8 分と交通の便もまずまず。見晴らしのいい 7 階建ての 6 階、1 万 3 千円の個室に暮れの 23 日（月）に移る。巨樹の会という結構大きい、医療・介護施設チェーンのリハビリ病院。聖ルカで退院手続き、手配して貰った福祉タクシーで 10 時半には先方着。孫息子との至福の同伴出勤は諦め、9 時に聖ルカへ。荷物をまとめ、看護師や薬剤師と打合せ、12 月分の百万円近くの入院・治療費をカードで払い、めでたく退院。

聖ルカの 3 万 3 千円の個室より広くゆったり、大きめのソファの他にデスクと椅子のセットと小さい丸テーブルもあり、広過ぎるくらい。収納も聖ルカより広く、トイレと洗面もつく。築後 2 年半ほどと新しく清潔、廊下や食堂などの共用部も広くゆったり。洗面がトイレと別に入口の所にある 7 千円の個室もある。早目にそちらに移ればと思うが、結構混んでいる。月 1 回お医者さんを交えた面談があり、早速 12 月 28 日（火）2 時から 2 時半に決まる。室内を伝い歩きするくらいには回復。医療や介護、そのための施設の向上には目を見張る。その分、コストもかかるのか？聖ルカには 1 ヶ月余で 2 百万円近く払う。治療代は 25 万円ほど、どこまで還付されるか？急性期病棟が 60 日、緩和期病棟が 90 日まで、その後自宅に帰れるか？施設暮らしか？骨折前くらいまで回復しないと自宅での一緒の生活は難しい。今更亭主がいいから家に戻りたい訳ではないだろうが、病む妻をこれ幸い放り出す訳にはいかない。袖触れ合うも多生の縁、家に戻れるようにはしたい。

2 月下旬、リハビリ病院で医師を含め面談。差額ベット代 1 万 3 千円の個室から 7 千円の個室に移るが、長椅子が一人掛けのゆったり椅子に変わり、トイレの場所が変わったくらい。清潔でゆったり。聖ルカの 3 万 3 千円の部屋より綺麗でゆったり。リハビリは順調、3 月半ばには退院、家で生活、🍀の介護人生活再開。何時まで続く？何ヵ月か？何年か？ステージが変わる時が必ず来る。突然のことが多く、戸惑いと哀しみを伴う。目には彩に見えねども、生身の生き物であれば、日々変化があり、変化が積もるとある時劇的に変わる。量が質に転化、ステージが変わる。量から質の転化を幾度か繰返し、終末へ向かう。

2 月に入り家の歩行器を押し病院へ。実際に使う歩行器を使いリハビリする。7 階建の建物の 1 階、大きな通りに面し、ガラス張りの明るい室内、年寄りの中に若者も混ざり、

色々な器具も使いリハビリに励む。差額ベット代を除けば、医療保険があるので年金生活者の妻の負担は医療費の1割。家に戻れば介護保険の世話になる。保険料を払う時は負担に感じて、利用する側に回ると有難い。共助の精神が制度を支える。差別と分断の進む国アメリカでは「国民皆保険」からほど遠い。次の大統領戦でどう変わるのか？経済が停滞する一方、医療費・介護費の膨らむ日本ではいつまで「国民皆保険」を維持出来るのか？「共助の精神」が問われる。今日も次代の希望、孫息子と保育園に「同伴出勤」を楽しむ。

### ◎三方良し！？井水利用専用水道のすすめ！

伊丹の大阪国際空港、阪急の宝塚ホテル、KKR（国家公務員共済）札幌病院の井水利用専用水道システムの稼働が間もなくだと、Jパワー（電源開発）から連絡がある。移転新築の宝塚ホテル、井水使用量を池田市と調整した大阪国際空港は時間がかかったが、Jパワーの井水利用専用水道の利用で、水源が市水と井戸水の二重になり、震災や水害時、公営水道がストップしても、井水が使えるので事業継続出来る。その上Jパワーが安く浄水を供給、水道代を削減出来る。井戸を掘って水が出ないリスク、膜ろ過などの浄水設備の投資はJパワーが負担、お客さんはリスクも投資もなし、水源を二重化して事業継続性（BCP）を高め、水道代を削減出来る。そんなうまい話があるか？皆さん眉唾。

水道代が高い、とりわけ個人向けより法人向け料金が格段に高い所では、大口ユーザー向けに安く浄水を供給出来る。経済原理に反する水道料金システムに種明かしがある。水道の基本料金は使用量の1割、井戸水を9割使うと一番経済的メリット、自治体との調整が必要な場合も。大阪国際空港の場合は井水の供給量は5割とし、地域のため受水槽に10個の水栓をつけ、災害で市水がストップした時には地域住民にも浄水を供給出来るようにする。Jパワーは安く供給する水道料金から10年から15年かけてメンテナンスフィーを含め設備投資を回収、利益を確保。地域住民、利用者、Jパワーの「三方良し」。10年前、東日本大震災の当日10時に筑波大学で井水利用専用水道の通水式、午後に大地震が発生、市の水道が止まった。水道は一度止めると復旧に時間がかかる。筑波大病院でも市水が通水するまで一ヶ月間、手術や人工透析を含め井水だけで病院を動かし、地域住民にも浄水を供給、随分感謝された。

今の中国の様に、日本が、東京が「世界の工場」だった頃、工業用水として地下水を大量に汲み上げ東京の下町の地盤が沈下、大問題に。工場が地方へ、更に海外へ移転、工業用水の地下からの大量取水がなくなると、東京駅や上野駅など駅の施設が押し上げられ、重石として地下に鉄の塊を置き、アンカーを打つ対策をするほど東京の地下水位が上昇、逆の問題が起きる。雨が降ると地下鉄の至る所から漏水、通路にバケツを置き、天井にビニールを張り漏水を集め、ビニールパイプで排水溝に誘導、地下鉄の皆さんの涙ぐましい努力。住宅事情が悪かった頃、台風が来ると停電してランプを灯し、大雨で漏水、家じゅうにバケツを置き凌ぐ。明治になって木製の樽や手桶の代わりに欧米から輸入され、明治20年代に国産化、今は中国製のbucket（馬の尻ではない！）が現下の東京の地下で大活躍。その東京で平成13年によりやく条例で新規井戸掘り禁止。地震で水道壊滅・大断水必死の危機、大雨で下町の河川が氾濫、浄水場水没の危険もある今になって。

幸い三鷹の寮で1年後輩の舛添要一君が都知事に、後任の小池知事のブレーンに●の次の三鷹寮委員長小島敏郎君が就き（都民ファーストの会都議団政務調査会事務総長）、2度

都庁に乗込む。せめて災害時に災害拠点病院や駅ビル、被災者を収容する学校・大学他の公共施設、大型ビルなどは例外的に井水を利用できるように、条例改正を提言するが、功を奏さず。ただ、条例制定前の既設の古井戸は利用出来るので、東大病院と医科学研究所では其々Jパワーの井水利用専用水道システムを導入、Jパワーの費用で古井戸を改修、膜ろ過を使った浄化設備を設け高品質の浄水を供給、水源を二重化し事業継続性（BCP）を高めた上、年間3千万円と1千万円、毎年4千万円、15年で累計6億円母校に~~●~~は「寄付」。

### ◎日本最後の革命運動を綴る・「続・全共闘白書」と映画「三島由紀夫 VS 全共闘」

「~~●~~通信」上での「全共闘 50 周年」の喧騒が万波を呼び、昨年 1 月安田講堂で 50 周年記念集会。アンケートの配付・収集を経て 9 月平成帝京大でアンケートの中間報告集会。年末大部の「続・全共闘白書」（情況出版社）出版に漕ぎ着け、1 月 18 日学生会館で盛大に出版記念会。団塊世代、全共闘の後世への遺言。半世紀を経て歴史となった全共闘の後世のための歴史資料。大部・高額にも関わらずお陰様で初版 2 千部は売り切れ、千部増刷。近くの図書館で購入申請して貰えると嬉しい。前半は日産の工場労働者を経て千葉大に入り直した在宅医療の堂垂医師、後半は編集者、作家、翻訳家などマルチタレントとして活躍する前田君、駒場共闘の仲間二人の、そして全国の全共闘の仲間の知恵と汗の結晶。

1960 年代末、学生運動が空前の盛り上がりを見せ、東大全共闘に母校が全学封鎖されたことで、体制の危機を感じた作家三島由紀夫は駒場に乗り込み、東大全共闘と対決、説得・翻意を迫る。法学部卒業後大蔵省入省の三島も法学概論などの講義を受けた大教室 900 番教室は超満員。対する演劇サークル劇団駒場の当時の主宰者芥君とその仲間達。木村修君や早逝した小阪修平君も若々しい。駒場共闘のマドンナ藤森さんとの赤ん坊をダッコして三島とやりあう芥。革命青年~~●~~もガールフレンドから「自分をとるか革命をとるか」と迫られる。数多の若者の青春と人生を巻き込んで、時代はうねる。



三島は盾の会という私兵を組織、市ヶ谷の防衛庁に討ち入り、自衛隊の決起を促し、クーデターを計るが失敗、自決。61 年入学、~~●~~と生協運動にのめり込んだ矢野君を駒場に残して法学部に進んだ文 I 中国語クラスの 23 名中 3 名の仲間を含む東大全共闘も、全国の学友と共に安田講堂に籠城、さらなる労働者・学生の連帯と決起を訴えるが 2 日で落城、獄に下る。「女のために人生を変えられるか！」と啖呵を切った革命青年~~●~~は 69 年 11 月 7 度目の逮捕で起訴され、足掛け 3 年拘禁された中野刑務所の独房で、三島の死を知る。テレビ局で発見されたフィルムで再構成する映画「三島由紀夫 VS 東大全共闘」。幕末から続く日本の革命の時代、自由・平等、民主、平和で豊かな社会の実現を求める「日本最後の革命運動」の、50 年目の真実に迫る。

冷戦下の高度経済成長時代、左翼の主張も取り込み所得を再分配、国民皆保険、皆年金、格差の少ない「一億総中流」社会が実現、「革命」の基盤は崩れる。高度経済成長時代を生き抜き、冷戦体制崩壊・グローバル競争時代の今、老境にあるかつての全共闘の仲間 5 百名ほどのアンケートで、日本最後の革命運動の 50 年目の真実に迫る、「続・全共闘白書」も好評販売中！


### ~~●~~の三度目の韓国ツアー

「百済・新羅 2 つの文化を巡る韓国南部周遊 4 日間」(19. 3. 31~4. 3、旅物語) (I)

## ① 体力と時間、資金と好奇心ある限り

小学四年生の孫娘メイとの台湾北部、上海周辺に続く3度目の海外ツアー。東アジアだけでなく、西アジアにも連れてってよ！と娘、望むところ。メイの好奇心の続く限り、爺のお金と命続く限り、どこにでも連れて行ってやろう！好奇心に翼つけ！最初の韓国はソウルだけ、2度目は釜山に入り新幹線とバスでソウルへ。安いパックツアーだからか？焼肉は日本の方が美味しい、なんて競争が激しく、ギスギスした、日本以上に生きにくそうな社会だと思う。今回は「百済・白羅2つの文化をめぐる韓国南部周遊4日間（19年3月31日～4月3日）」（旅物語）。JTBの廉価版通販ツアーは久しぶり。安いツアーでいいから沢山飛び、旺盛な好奇心を満たす！世界の事情を肌で感じる！の基本姿勢。ホテルや飛行機のグレードには拘らない。今回は第3の都市大邱(テグ)から入り、白羅・百済の文化遺産を巡る南部5都市の旅。前2回と違う韓国を感じる事が出来るか？


日経新聞に「韓国学歴主義、招く出産減・・・昨年出生率初の1割れ、低下止まらず」と。韓国は凄まじい競争社会。有名大学に入り、財閥系の大会社に入って高給を食み、或いは医学部に入って医者になり稼ぐ。そのため小さい時から幾つも習い事をさせ、塾に通わせたり、最近では有名大学の医学部に入るのに個人指導を受けると年間1千万円かかる。結婚して子供が出来ると進学率のいい有名小中学校の学区に住まいを求め、住宅価格も高い。子供の教育に所得の半分ほどを使い、住宅も高いので中々結婚して家庭をつくれな。20才～40才の男性の未婚率は58%、結婚しても子供をつくらなかったり、一人しかつくらず、遂に出生率が初の1割れという訳だ。「少子高齢化先進国」日本でもこれほど酷くはない。「以て他山の石とせよ！」。これでは皆さん、何のために生きているのか？

いつもは勝どきから大江戸線で御徒町まで行き、京成上野駅まで地下道をガラガラスーツケースを引き摺り、上野から成田までスカイライナーを使うことが多いが、朝9時40分の集合時間に合わせ、8時30分東京駅発、成田空港9時29分着成田エクスプレスの指定席を買い、勝どきからタクシーを拾う。いつもは集合時間を過ぎてから成田空港に着くが、今回はピッタリ着の優等生。「旅のしおり」を初めて真面目に読むと11時40分発なのに「機内食なし」とある。安売り航空(LCC)利用だとようやく気がつく。搭乗ゲート前でメイは天婦羅そば、爺はラーメンで腹ごしらえ。前回は搭乗直前に、LCCなので機内食がないのに気付く、慌て買い込んだお握りや缶ビールの機内持ち込みで係員と揉めた。長旅の友にビールは必須。今回はあらためて搭乗口のスタッフに聞く。大丈夫だと言う。水平飛行に移って買ったばかりのツマミとビールを出して飲み始めると、「お客さん困ります」とスッチャー。そんなこと言われても困るのはこちら。旅のしおりにも航空券にもそんなことは書いていない。それなら弁当やツマミ、飲物を機内販売すればいいのにそれもない。取り敢えず釜山航空 BX115 便は大邱空港に予定通り無事到着。

## ② 初めての犬邱・・・韓国トイレ事情

人口250万人、大きい丘の呼称の大邱は、山に囲まれた盆地。夏は40度にもなり韓国で一番暑い町。ソウルと釜山を結ぶ京釜高速国道や韓国新幹線 KORAIL 京釜線が通り、中央高速国道などで全国各地と結ばれる交通の要。地下鉄の他にモノレールも走る。海がないかわり大きな川。川沿いの桜並木がきれい。あちこちに教会や聖堂。仏教徒が一番多く儒教も多いが、教会は街中に多く通い易いので、遠い所に寺がある仏教よりクリスチャン


が増えているという。

最初に向かったのが免税店。1階から3階までブランド物のファッションで一杯だが、爺と10才の孫娘には無縁。椅子がありお茶くらいサービスしてくれる所がある筈だ。探すがない。ようやく1階の片隅、靴売り場にソファ2つ。50分の買い物時間を持って余し休み所を求め、年配の方の多い一行17名、順次1階まで降りてくるが、腰を下ろす場所もなく、所在なげに立ちん坊。多少気が引けながらも楽々ソファに座って、遅まきながら「地球の歩き方」で旅の勉強。孫娘はスマホでゲーム。大邱は昔から市場で有名。朝鮮王朝時代から続く漢方薬市場の薬令市があり、これも王朝時代からある西門市場は生鮮食品から日用品、雑貨、衣類や韓国服のオーダーメイドまで、何でも揃う巨大な在来市場。

日本と違ってタワマンが「塊として群生」、中国に似る。日本以上に都市集住、都市の高層化が進むのか？トイレ事情も中国に同じ。水洗トイレでもトイレに紙を流すとトイレが詰まるので流してはいけなかった。事情が変わり、ゴミ箱のない所はトイレに紙を流していいとガイド。下水道の整備、近代化が進んだのか？西門市場で自由行動、孫娘とお店を冷やかして歩くが、トイレが簡単にみつかる「どこでもトイレ」の日本と違い異国では中々みつからない。ようやくみつけたトイレにはゴミ箱があるが、トイペはなくちり紙不携帯。入り口にティッシュの自販機、ガイドにウォンを両替して貰ったばかりだが、コインはない。街角で無料のティッシュペーパーを配る日本が早くも懐かしい！？親切なコリアンがコインを入れて、マッチ箱ほどに折り立たんで圧縮したティッシュを取ってくれる。政府間ほど国民感情が悪い訳ではない！千ウォン札を渡すと、4枚ほどコインを返してくれる。1個2百ウォン、20円ほどの計算。

いざ使う段になると包装がきつく中々破れない。ようやく破るが、マッチ箱ほどに小さく折り畳んであり広げて使うのが厄介。お尻を綺麗にしてくれた貞操の硬い？！可愛いティッシュと別れる段になっても、異国に来たからと言って身に染み付いた習慣を急には変えられない。ゴミ箱ではなく水に流してしまう。分身のごくごく一部とは言え、ゴミ箱で醜態を曝させるのではなく綺麗さっぱり水に流してやる。分身のお葬式は水葬がいい。

#### ◎味は文化です！2019年④交流会 兼 忘年会

暮れの26日駒形どぜう渋谷店で、チャイニーズ3人、インディアン1人、総勢19人で、爺73才の誕生会？お袋は糖尿やら認知症やらで73才で亡くなった、親父は93才で脳梗塞で倒れ、2週間ほどで大往生。愚息は如何ばかり？若者と久し振りどぜう鍋と柳川鍋、豆腐とコンニャクの田楽、鯉のあらい、純米酒の日本の食文化を楽しむ。古漬け、鯉こくと同じ甘い味噌たっぷりのどぜう汁と白いご飯で。1年生で交流会常連の田名部君が自治会委員長に当選。この所必ずしもスムーズでなかった寮生との意思疎通もうまく行くと嬉しい。縦・横の交流・連係が深まり、グローバルにネットワークが広がり、多少とも人類社会に貢献出来ると望外の幸せ。

参加者は、高田夏輝（2015・文Ⅲ 工学部建築学科・愛知・岡崎）、横字史年（2015・文Ⅲ・愛知・岡崎）、青山絵里香（2016・文Ⅲ 文学部東洋史学・愛知・一宮）、片岡丈人（2016・文Ⅱ 経済学部・青森・弘前）、勝山杜都（2016・理Ⅰ 工学部航空宇宙・大阪・北野）、小林義信（2016・理Ⅱ 農学部フィールド科学・茨城・水戸第一）、檜枝悠太（2016・理Ⅰ 教養学部学際科学科・兵庫・東大寺学園（奈良））、韓東学（2018・理Ⅰ 工学部物理工学科

進学予定・中国 瀋陽・東北育才学校)、孫銘沢 (2018・理 I 計数工学科内定・中国 瀋陽・東北育才外国語学校)、大出拓哉 (2018・文 III 文学部美学芸術学科・宮城・仙台第二)、齋藤聖仁 (2018・理 II 工学部化学システム工学科内定・北海道・北嶺)、菅野晃太 (2018・理 I 工学部システム創成学科・北海道・旭川東)、Dhruv Iyer (2019・理 I 機械情報工学科・インド ムンバイ)、キョゲツ (2019・公共政策大学院・中国・洛南外国語学校)、旭博佑 (2019・理 I・福岡・久留米大学附設)、田名部琉 (2019・文 II・京都・嵯峨野)、OB が北條新之介 (2015 (院)・総合文化研究科地域文化研究専攻アジア科中国・栃木・真岡→東北大)、伊藤明日斗 (2011・文 I 法学部・北海道・札幌北)、● (1966・文 I 法学部・秋田・能代)、辰紘 (1965・文 I 教養学部教養学科国際関係論・大阪・三国丘)。

### ◎故郷納税とハサミは使いよう・・誰か故郷を思わざる！

色々問題があり、批判も大きい故郷納税だが、故郷振興に役立てばと、時々使わせてもらう。少子高齢化の進む日本の中でも、人口減少の最も激しい故郷秋田。日本海沿いの最北端、出身の八峰町はその中でも突出。●の学んだ、岩館小学校も、八森中学校も今はない。岩館小学校は 1 学年 1 クラス 40 人、昭和の大合併で岩館村と他の 2 村が集まって八森町が出来、3 つの中学校を統合して八森中学校に。1 クラス 200 人。平成の大合併で同規模の隣村峰浜村と合併、八峰町となり八峰中学として統合、今 1 学年 1 クラス 20 人ほど。同規模の隣村の中学にも●の同期生が同数ほどいた筈。併せて 1 学年 400 人の中学生が今 20 人、半世紀ほどの間に 20 分の 1 になる減り様。●は団塊世代の走り、翌年の岩館小学校は 1 学年 60 人で 2 クラスとなった。それからすれば 30 分の 1 という減り様。この勢いで縮めば、現在 9 千人ほどの八峰町の人口は半世紀後には 300 人。誰か故郷を思わざる！

### ※能代名産鶴形牛取り寄せ、辰邸で新年会

故郷納税と鉦は使いよう！取り寄せたハタハタ鮓ときりたんぽを一人で味わうより、世界中から集う三鷹寮の後輩にも故郷の味を味わって貰おう！幸い、高校時代 3 年間通った能代には黒毛和牛の名産鶴形牛がある、取り寄せる。例年、三鷹寮の近くに住む 1 年先輩の辰さん宅で、寮の居残り組と新年会をやるが、今年は鶴形牛の焼肉パーティに。●はハタハタ鮓も持参。狩人の会の小林君が鳥肉を持参、焼き鳥も。結構いけると聞けばカラスだという。生まれて初めての味。長生きするものだ。

参加者は、青山絵里香 (2016・文 III 文学部東洋史学・愛知・一宮)、小林義信 (2016・理 II 農学部フィールド科学・茨城・水戸第一)、韓東学 (2018・理 I 工学部物理工学科進学予定・中国 瀋陽・東北育才学校)、孫銘沢 (2018・理 I 計数工学科内定・中国 瀋陽・東北育才外国語学校)、菅野晃太 (2018・理 I 工学部システム創成学科・北海道・旭川東)、Dhruv Iyer (2019・理 I 機械情報工学科・インド ムンバイ)、エハリマン (2019.10～2020.01 短期交換留学・中国 新疆ウイグル自治区・北京大学)、キョゲツ (2019・公共政策大学院・中国・洛南外国語学校→北京外国語大学)、田名部琉 (2019・文 II・京都・嵯峨野)、小宮澄音、橋本侑京、OB が北條新之介 (2015 (院)・総合文化研究科地域文化研究専攻アジア科中国・栃木・真岡→東北大)、● (1966・文 I 法学部・秋田・能代)、辰紘 (1965・文 I 教養学部教養学科国際関係論・大阪・三国丘)、辰洋子、久保田康史 (1964・文 I 法学部・福岡・修猷館)、久保田康子。

## ※味は文化です！きりたんぼ交流会

2月1日土曜日、故郷納税で取り寄せたきりたんぼ鍋セットと鮎で、晴海の我が家でキリタンボ鍋パーティ。15人、精々20人と践んでいたが先輩二人から当日電話、一人は千葉大4年生の可愛いお孫ちゃんを同伴。社会人の田中君が飛び入り参加、総勢26人。事務所からも丸椅子3脚運び、家中の椅子を動員するも足りず。マンションのフロントから会議室の折り畳み椅子5脚借り、椅子取りゲームの事態は避けられる。

農学部農獣学科に進学、ジビエのサークルに参加、狩猟が趣味の小林君が、今回は雉1羽を持参、一鍋は雉をつかう贅沢。最上の鶏肉は雉、次は山鳥、その次が地鶏。マタギ料理が発祥で、保存食の切りダンボ、打ち獲った雉と山菜と一緒に鍋にしたのに由来。半世紀以上ぶりの雉肉を食す。抵抗感があったのは加齢故か？アクティブシニアは歯力と視力も大事にしたい。チャイナが二人、インディアン、カナディアンも交えた老若男女26人。次代を担う日本と世界の若者の活躍を願い、湾岸の夜景もツマミに遅くまで盛り上がる。

参加者は、高田夏輝(2015・文Ⅲ 工学部建築学科・愛知・岡崎)、青山絵里香(2016・文Ⅲ 文学部人文科学東洋史学・愛知・一宮)、片岡丈人(2016・文Ⅱ 経済学部・青森・弘前)、小林義信(2016・理Ⅱ 農学部フィールド科学・茨城・水戸第一)、八野圭晃(2016・理Ⅱ 農学部生命化学・工学・兵庫・灘)、檜枝悠太(2016・理Ⅰ 教養学部学際科学科・兵庫・東大寺学園(奈良))、張舟杰(2017(院)・工学系研究科・中国)、韓東学(2018・理Ⅰ 工学部物理工学科進学予定・中国 瀋陽・東北育才学校)、菅野晃太(2018・理Ⅰ 工学部システム創成学科・北海道・旭川東)、孫銘沢(2018・理Ⅰ 工学部計数工学科・中国 瀋陽・東北育才外国語学校)、鶴山和人(2018・理Ⅱ 農学部生命化学・工学内定・石川・金沢泉丘)、白寧杰(2018・理Ⅰ 理学部情報科学科・中国 瀋陽)、Stephen Chankov(2019 USTEP・国際関係・カナダ・トロント大学)、Dhruv Iyer(2019・理Ⅰ 機械情報工学科・インド ムンバイ)、旭博佑(2019・理Ⅰ・福岡・久留米大学附設)、井上亮(2019・文Ⅲ・兵庫・姫路西)、田名部琉(2019・文Ⅱ・京都・嵯峨野)、山本一詩(2019・文Ⅲ・鹿児島・ラ・サール)、OBが北條新之介(2015(院)・総合文化研究科地域文化研究専攻アジア科中国・栃木・真岡→東北大)、田中翔(2011(院)・理学系研究科地球惑星科学専攻・東京・科学技術)、●(1966・文Ⅰ 法学部・秋田・能代)、打林國雄(1965・理Ⅰ・富山・富山中部)、辰紘(1965・文Ⅰ 教養学部教養学科国際関係論・大阪・三国丘)、安藤誠四郎(1962・理Ⅰ・福岡・修猷館)、浅野元彦(1957・理Ⅰ・工学部応用化学科・愛知・南山)、楠本真菜(千葉大学 法政経学部・東京・竹早)。

## ◎結びに代えて

師走の26日寮生とどぜうで忘年会、27日から30日までベトナムへ孫娘と4度目の海外ツアー、大晦日関越道を北上、元日から3日まで越後湯沢で孫娘とスキー、4日未明関越道を南下、埼玉の小川カントリーで仲間とゴルフの初打ち。5日先輩宅で寮生と新年会と疲れを知らぬアクティブシニア、老人性多動性症候群の●。そんなクレイ爺もコロナウイルス禍で楽しみにしていた春休みの孫娘との5回目の海外ツアー、マレーシア縦断6日間を中止。3月14日の国立劇場での東大三鷹クラブと東京银杏会合同歌舞伎観劇会と3月19日の東大三鷹クラブの大阪での講演会も残念ながら中止に。関係者の皆様にはご迷惑をお掛けしました。皆様と共に、コロナウイルス禍の一刻も早い収束を祈り、結びに代えます。